

オガサワラシジミに関する主要なできごと・取組

年	法制度及び生息域内保全関係	生息域外保全関係
1969 (S44)	4月 12 日 国の天然記念物に指定	
1989 (H1)	兄島の最後の生息記録	
1992 (H4)	父島の最後の生息記録	
1997 (H9)	弟島の最後の生息記録	
2002 (H14)	アカギ(外来植物)の駆除を開始	
2005 (H17)	専門家の呼びかけにより本種の保全について検討する会合を開催(後に「オガサワラシジミ保全連絡会議」として発足)	東京都多摩動物公園が生息域外保全の取組を開始
2006 (H18)	父島に小笠原自然保護官事務所開設	小笠原(母島)より個体の導入を試み、多摩動物公園にて飼育・繁殖の技術確立に向けた取組を継続して実施(餌の苗木栽培、人工飼料、採卵方法、交尾方法など)
2007 (H19)	母島・新夕日ヶ丘にグリーンアノール防除柵による自然再生区を設置	
2008 (H20)	種の保存法における国内希少野生動植物種に指定	
2009 (H21)	保護増殖事業計画策定(文部科学省・農林水産省・国土交通省・環境省) 「小笠原希少昆虫保護増殖事業会議」を初開催(以後毎年、各種会合を開催)	
2011 (H23)	6月 小笠原諸島が世界自然遺産に登録	
2012 (H24)	東京都が母島の所有地にて保全施設を整備(2013・2014・2015年に、各団体の協働により幼虫を一時飼養したのち成虫の試験的移植を実施) 外来種駆除等による自生餌木の環境改善開始	
2016 (H28)	12月 母島の年間降水量が1000mmを下回り、40年ぶりの渇水となる。	10月 多摩動物公園が野外で捕獲した雌より有精卵を得て、孵化幼虫41個体を多摩動物公園に搬入(以後、繁殖技術(飼育下での交尾誘発)が確立し、飼育下20世代までの累代飼育に成功)
2017 (H29)	春 コブガシ(幼虫の餌植物)の開花不良 9月 大型台風が長期滞在	
2018 (H30)	5~6月 生息状況調査で個体を確認(以後、公的機関による調査では生息確認なし) 9月 保護増殖検討会開催(本種単独) 12月 母島の降水量が過去最低の761mm	
2019 (R1)		10月 多摩動物公園の飼育個体の一部を環境省が譲り受け、新宿御苑にて分散飼育開始
2020 (R2)	3月 東京都の保護増殖事業計画策定(環境大臣確認) 7月 19-20日 環境省・東京都の呼びかけで、現地の行政機関や地元団体の協力により、母島にてオガサワラシジミー斉調査を実施(2日間でのべ54名参加)するが、生息は確認できず	7月 新宿御苑第3世代成虫100個体(うち交尾成立13ペア)より400卵以上を得たが、すべて発生せず、新宿御苑での分散飼育は当該世代で終了 8月 25日 多摩動物公園で飼育していた最後の個体が死亡